

豊かな大阪をつくるために問題提起をする学者各氏＝14日、大阪市



# “豊かな大阪つくりたい”

## 学者がシンポジウム

5月17日の「大阪都」構想到をめぐる住民投票で大阪市の存続が決まったことを受け、大阪の未来に関心を寄せる学者有志による、豊かな大阪をつくるためにどうすればよいのかを考えるシンポジウムが14日、大阪市内で開かれました。6人の学者が、200人を超える参加者に向けて、各分野から問題提起をしました。

代に関係なく、「どれだけ大  
阪市に対して帰属意識があ  
るかの差ではないか」と強  
調。「いかに、新しい住民  
を「大阪市民」として取り  
込めるかが重要だ」と話し  
ました。

中央防災会議などで活躍してきた河田恵昭・京大名  
誉教授は、災害が起これば、情報が一番大事になる  
として「これからは文明産  
業ではなく、文化産業が主  
流となる」と主張。

大阪大学大学院の小野田  
正利教授は「橋下・維新政  
治の約7年で、教育が最も  
攻撃対象にされた」と語  
り、「教育基本条例を見直  
す議論をしないといけな  
い」と提起しました。

帝塚山学院大学の薬師院  
仁志教授は、投票結果は世  
視聴できます。

各分野からの問題提起を  
受けて、藤井聡・京都大学  
大学院教授は「すべてを見  
据えていかないと豊かな大  
阪はできない」と強調しま  
した。シンポジウムの様子  
は藤井氏のホームページで